



▲展示された手づくりの木工パズルを楽しむ来場者

第2回田川工芸祭

田川地区の工芸家の力作並ぶ

11月23日～25日の3日間、伊田商店街周辺で田川工芸祭が開催され、田川地区の工芸家が製作した作品展示やステージ発表などが行われました。

この催しは、商店街の空き店舗を活用し、まちの活性化や地元の工芸家を紹介するために昨年から行われているもの。昨年は1日のみの開催でしたが、今年は3日間にわたって行われ、会場のあちこちに並んだ陶芸や木工、紙工、金工などの作品が、訪れた人たちの目を楽しませていました。

糸田町で無双窯元を開く長末修次さんは「最近では窯元まで見に来る人が少なくなった。知らない人にも作品を見てもらう良い機会になっています」と話しました。

世界記憶遺産の保存活用に

田川日本舞踊協会が収益の一部を寄付

11月23日、田川青少年文化ホールで田川日本舞踊協会（泉鳳楽会長）の主催により、山本作兵衛基金チャリティー公演「薫秋の舞」が開催され、その収益の一部が市に寄付されました。

田川日本舞踊協会は、結成から50年以上活動を続けており、現在は5流派23人の名取を中心に、年に1回、勉強会を兼ねたチャリティー公演を行っています。今回は、世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の炭坑記録画などの保存活用に役立てて欲しいとの思いから公演を行ったそうです。

泉会長は「会員の踊りの技術向上とともに、今後も田川地域発展のために貢献したい」と話しました。



▲田川日本舞踊協会のみなさんから、思いが託されました



▲演技を通して思いやりの大切さを訴える児童たち

小中学生も大活躍！

人権週間講演会2012

12月1日、福岡県立大学講堂で「人権週間講演会」が開催され、約300人が参加しました。

この講演会の司会進行は、中央中学校放送部員2人が務めました。また、オープニングでは、大藪小学校の児童6人が、人権について全校児童で学びあう「きらきら集会」の取り組みを紹介し、参加者からは大きな拍手が送られていました。

引き続き、テレビドラマプロデューサーで作家の栗原美和子さんが「差別のない社会を目指して～プロデューサーと猿まわし芸人、私たち夫婦にできること～」と題した講演を行いました。参加者は真剣な表情で、時折大きくうなずくなど栗原さんの話に聞き入り、涙ぐむ姿も見られました。